

議 事 録

会議等名称	平成30年度 第3回伊那市子ども・子育て審議会
日 時	平成30年11月21日(水) 午後6:30～8:40
場 所	市役所 303会議室
議 題	児童数減少地域の保育園について ニーズ調査の実施について
議 事 内 容	
<p>1 開 会 (18:30)</p> <p>2 あいさつ (18:33) 審議会長 保育料の改定について前回の諮問を受けて、正副会長で答申を行った。 先日保護者連合会の研修報告会に参加したが、保護者会長のいろいろな話が聞けてよかった。 西箕輪子育て支援センターへ立ち寄った。20人程度がグループに分かれ楽しそうだった。人懐っこい子ばかりで将来の成長に期待を感じると共に、明るい家庭の様子も想像できた。大切にしていきたいと感じた。</p> <p>3 協議事項 (18:40) (1) 児童数減少地域の保育園について <事務局> 前回意見をまとめたものについて確認、再度協議いただきたい。 ～ 以下、資料1について説明し、下記1～4について意見を伺う ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現行の保育園整備計画に示す休廃園基準について 2. 保育環境と集団保育について 3. 未満児や通園環境に配慮した運営について 4. 小学校との連携と保育園の配置(1校1園)について <p>【意見・質問】</p> <p>1について</p> <p><委員> 7月9月と議論を重ね意見を出してきた。まとめが恣意的で偏ったものである。記載の中で衰退を危惧する思いは若い世代より高齢者というところは心外である。東部西部の小規模保育園については存続が大きな問題である。 「あり方の考え方(案)」が示されているが、現在の基準は廃止するということになる。20人未満を見込まれる施設の20人はどこからきているのか。大きな問題と捉えている地域としてしっかり話をする必要がある。</p> <p><委員> 資料の分け方が適当なのか、現行の基準が適当なのか疑問。今の休廃園基準が適用になった例はあるのか。現行基準がどのような経過で存続し、現在も活用されているのか。</p> <p><事務局> 過去に新山がこの基準により休園し、再開している。伊那西部も現在休園中。</p> <p><委員> 該当地域の意見を聞き取り、反映する必要があると思う。</p> <p><委員> 新山は基準により休園となり地域の努力により再開した。その際に課より次に定数を割った場合は即廃園と言われている。</p> <p><委員> 20人が適当かわからないが、一定の基準は必要と思われる。基準がないと1人でも存続す</p>	

ることになってしまう。

<委員> 現行基準は廃止という解釈でよいのか。

<事務局> 現行基準の廃止する、しないではなく、委員の意見を聞いたうえで修正していく必要があると考えている。

<委員> 有り方の考え方を見ると、現行基準を無くすと見て取れる。そこをはっきりしてもらいたい。

<会長> 事務局に決定権があるわけではない。この場で事務局が回答はできないのでは。

<委員> 現行基準を良いと言っている委員は一人もいないので廃止とすべき。

<委員> 誰が最終的な決定をするのか。

<事務局> 最終判断は理事者となる。

<委員> 理事者が決定するのであれば、委員で話をしてきた意味がないのでは。委員の権限とはどうなるのか。

<会長> 審議会で検討してきた内容が事務局から理事者へ報告されていくため、意見は尊重されているものと考えている。全てが通るものでもないが意見が無視されるものではない。

<委員> このことで一般質問で意見した者は10人を下らない。その際、市長の答弁では子ども子育て審議会で決めてもらうと答弁されている。この審議会で結論を出すべきだと考える。

<会長> 皆さんの意見は

<委員> 審議会で決定権はあるのか。答申したらそれに理事者は従わなければならないのか。

<会長> 意見を出し、市長に決定してもらうものと理解している。ここで出された意見を事務局でまとめて市長に報告してもらいたい。

<事務局> 会長の言う通りであり、市長にも報告している。

<委員> 委員全員が良ければ「あり方考え方(案)」の文面の前に「現行基準を廃止」と入れればよいのでは。

<委員> 基準を廃止とすると全ての基準がなくなることを意味する。基準は必要であるため、『見直し』とするのが適当と考える。

<委員> 休廃園の現行基準が適当でないと言っているのであり、今後の基準が不要というわけではない。以後の基準の事について何の議論もされていない。現行基準が適当でないからこれを廃止とし、新たな基準を作ればよい。

<委員> 現行基準の割合数字等は問題と思うが、代替案を出してからでもよいのでは。

<委員> 廃止ではなく改定ではだめなのか。

<委員> 「あり方考え方(案)」には改定という文言がない。

<委員> 見直しについては賛成。地域の実情を見て考える必要がある。ただ少人数保育には限度がある。基準を廃止として0から作り直す必要があるのか。

<委員> 現行の基準で苦しんでいる園が4園ある。まずは基準を無くし新たに考える必要がある。基準は必要と思っているが、「20人」がどこから出てきたのか、適当なのかわからない。

<会長> 議員は「廃止」にこだわっている。見直しではどうしていけないのか。

<委員> 現行基準により苦しんでいる園がある。そのためには「廃止」とし、それから考えればよいと言っている。

<委員> 廃止しないと次に進まないわけではない。

<委員> 次の指標を同時に進めていかなければ基準がない状態ができるため、市としても保護者に説明ができないのでは。

<委員> 「廃止したらそのまま」とは言っていない。指標は考える必要がある。

<委員> 次の指標について早急に議論が必要。

<委員> 地域の方が「廃止」としなれば納得しないのか。そうは思わない。見直しでもよいのでは。

<副会長> 過去は基準に沿って進めていかなければならなかったが、委員の意見にもあるように、これ

からはその時点の状況を見ながら判断していくことも必要。

- <委員> 個人的には現行基準が厳しいものとは思わない。今後の園児の推移を検証する必要があるが、園を運営する側の意見も聞く必要がある。
- <委員> 2点危惧することがある。①運用方法…基準と運用が入り混じっている。文面に曖昧な点が無いように詳しく記載する必要がある。②新たな基準…20人が適当かわからない。新基準は直ぐには決定できないのではと思う。それまでの間は現行に縛られないとすればよいのではないか。
- <委員> 新たな基準を考えるにしても園児数は必要項目と考える。「園児数を基準とせず」は外すべきと思われる。
- <会長> 「廃止」とせず「改定」としてよいか。
- <委員> 次回に関係者を招き意見陳述を受けるべき。
- <委員> 入園基準を満たしているかもわからない方もいるため、公平性を考えて次回公立保育園を認定こども園化する考えがあるのか。市の考えも示してもらえれば。

2～4について

- <委員> 2について 関係者の意見陳述を受ける必要がある。出された意見とまとめ方に相違がみられるので「あり方考え方(案)」の文面の修正が必要。
- <委員> 考察に「負担の増加」とあるが、どのような負担があるのか
- <事務局> 委員の皆様のご意見の中にあつた内容をこのようにまとめさせていただいたが、問題があれば修正をしていきたい。
- <委員> 1行目「集団保育の中で・・・望ましく・・・」は、少人数がだめと言っているような言い方であり、削除が必要と考える。
- <委員> 3について、「あり方考え方(案)」の距離については、小学校区範囲とするのが良いと思う。飯島委員の意見とは反対。実際に遠くから来ている方もいる。園選びに距離だけを考えている人ばかりではない。この園が好きだからという人もいる。
- <会長> 通園距離を優先するよりどういった理由で通っているかの資料を事務局にお願いしている。
- <委員> 4について「1校1園に固定せず」とあるが、小学校区は大事である。「固定せず」は削除すべき。
- <委員> 「固定せず」に誤解があるかもしれないが、「固定せず」をなくすと伊那小はどうなるのか。議員の言っていることは最低1校1園という考えからか。
- <委員> 最低でも1校1園という意味からで、「固定せず」があることで逆になくてもよいと考えることもできてしまう。
- <委員> 固定より隣接を取り除いた方が良い。
- <委員> 地域の子供が全て通うとするのであれば公平性から認定こども園化すればよい。保育園は入園基準があり、全ての人が利用できる施設ではない。1校1園にこだわる必要はないのでは。
- <委員> その地域の子供がその保育園、学校に行かなければいけないということではない。子ども達ほどこの園に行ってもよいと思うが、小学校と保育園は隣接する必要がある。
- <委員> 保護者の多様な選択も市として暖かく認めていただければよいと思う。
- <副会長> 新山小と保育園は地域と一緒に運動会を行っており、とても素晴らしいこと。伊那西部が開園中は全員が対象地域の方ではなかったはず。その辺は委員も承知しているはずだが、間違いはないか。先を考える中では、ここになければいけないと考えるべきではない。保護者の多様な考えがある。
- <会長> 関係者の意見を聞くべきということだが、具体的にお示しいただきたい。
- <委員> 新山、高遠第2第3にある移住定住協議会の会長、保護者会長、長谷保育園保護者会長、西部地域では公民館長、伊那西小学校PTA会長

- <委員> 山間地域だけでは意見に偏りが出るため、広く意見を聞く必要がある。
- <委員> 廃止と考えている人だけの意見を聞くだけではよくないと思う。
- <委員> 苦しんでいる方が実際にいるので、その話を聞くことが重要。
- <委員> 話を聞くとすれば、地域の実情を知りたいため、その地域にどの位の子どもがいるか等の資料も用意いただきたい。
- <委員> 地域の方のアンケートをとることはできないか。
- <会長> 考えを聞く、アンケート、現状資料等どう思うか。現状資料は事務局で用意できると思うが。
- <委員> 地域の意見を聞くことは大切と思うが、アンケート等の方法も広く意見を聞く意味では良いと思うし、今回のアンケートも参考にできればと思う。
- <委員> 来られるのが大変と思われるので、いろんな考えを記入したもので提出してもらえばよいのでは。
- <委員> 実際に当事者から語ってもらった方が危惧感が伝わる。審議会の使命として必要ではないか。
- <事務局> 呼ぶか呼ばないかは会の運営上のこともあるので正副会長と事務局で検討したい。

(2) ニーズ調査の実施について (20:15)

- <事務局> 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査を行いたい。アンケート内容について追加する項目はないか。
- ～ 以下、資料2関係について説明 ～
- <委員> 対象の抽出はランダムなのか。
- <事務局> 前回に習い実施したいと考えている。年齢別に偏りがないよう実施したい。
- その他意見なし

(3) その他 (20:30)

特になし

5 その他 (20:31)

- <事務局> 高遠保育園後利用の状況報告について
美篤子育て支援センターの移転を検討しており、12月議会全員協議会で報告する予定。
- <事務局> 本日の意見を受けて、その内容を盛り込み、更に詳細な資料を用意しつつ、次回もう少し詳細な方向性を提示させていただくので、更に掘り下げた検討をお願いしたい。

6 閉会 (20:40)